

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第4号

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	1 1 1
		決裁期日	平成21年 7月24日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会（第3回）		
日 時	平成21年7月23日(木) 午後7時00分～午後9時10分		
場 所	上富良野町役場 第3会議室		
出席者	委員12人 町民生活課長、事務局2人 合計15名		

内 容

**[ 進行：町民生活課長 ]**

町民生活課長から、欠席連絡のあった委員について報告。

**あいさつ**

丸田会長： 会議への出席にお礼申し上げます。昨年以上に雨が続き、出来秋が心配される。今回から条例の内容について数回勉強していきたいので、各項目について意見を願いたい。

**議題**

**1 上富良野町自治基本条例についての研修**

町民生活課長から、条例の読み合わせの進め方について説明し進行。

町民生活課長： 解説書4ページの条例の構造について説明。

**< 前文に関する意見要旨 >**

- ・「住んでいて良かった、住み続けたいと思えるまちを目指す」の表現は良いと思う。
- ・安全安心なまちづくりが住み続けたいまちになると思う。
- ・最近の町の仕事（道路工事）は、三者（町民・役場・事業者）が集まり住民の意見を聞いて進められており、良いことだと感じた。
- ・長年この町に住んでいれば、現状のまちが当たり前になっている。従来は役場にお任せで、陳情合戦もあった。
- ・20年前は、道路側溝の整備は、町から資材の提供があり、住民自ら側溝を整備していた。そのうち役場でやるようになったが、これが続いていけば今どうなっていたかと思う。
- ・住民も役場に任せておくのが当たり前の時代もあった。
- ・島津住民会で先日、町道脇の雑木伐採を行った。住民から道路のカーブが雑木で見通し悪いので木の処理について要望され町に相談していた。今回の勉強会で協働の話聞いたことから、地域の人に話したところ自分たちでやることになった。木は2トンダンプ10台分もあった。この取組みは、早々に町のホームページで紹介された。
- ・「心も体も健康に」の言葉も大切なキーワードと思う。
- ・「このまちを更に発展させ」とあるが、世の中が今後どうなっていくのか大変不安を感じている。

- ・「次世代に引き継いでいく」とあり、わたしたち世代の責任を感じる。
- ・自分たちが次世代に何を残せるかを考えれば、良いアイデアが出ると思う。
- ・この町に生れ育った方は宿命的な土着民で、若いときの思い、年を取ってこの町をどう思うか。この町を選択して住むという選択土着民が増えれば良いまちになっていくと思う。
- ・1980年代から行政が肥大化してきたが、梶山静六議員の言葉に「行政は痒いところに手をかけたが、痒くなりそうなどころまで手をかけてきた」と印象的な言葉がある。
- ・本州の方々はこの地域が良いと住み着いているが、何年も住んでいるうちにその良さが感じられなくなると思う。
- ・他府県の方のこの町に対する感想として、人が親切、きれい、人間性が良いといってくれる。その点でも良い町と思う。

< 第1条に関する意見要旨 >

- ・なし

< 第2条に関する意見要旨 >

- ・一般的にコミュニティは、地域のつながりと思う。住民会などのつながりが強く、日ごろから活動されていることが理想で、高齢者に対する福祉活動などは安全安心な町につながると思う。
- ・コミュニティ広場という使い方もあり、人が集まることなどいろんな意味があると思う。
- ・コミュニティという言葉にはいろんな意味がある。高齢者にはわかりやすい言葉で説明することが大切。相手に理解してもらおうよう、流行の言葉などは使わないようにしている。

< 第3条に関する意見要旨 >

- ・町章の説明は良くまとめられていると思う。

< 第4条～第6条に関する意見要旨 >

- ・町報は字が大きくなり、絵も入っていて読みやすくなったと思う。老人会で評判良く、読んでいると聞く。防災無線は時間的に老人の中には寝ている方もいて聞いていない。正確な情報を得るのは広報誌と思う。
- ・住民会で自主防災組織の話し合いを行うが、町から弱者などの名簿提供もなく、支援の対象者になるかは本人への確認が必要になる。このため、中々話し合いが進んでいない。
- ・個人情報から、還暦名簿や神社の厄年名簿などの取り扱いが難しくなっている。
- ・防災活動は事前情報が大切である。
- ・高齢者からは比較的情報を得やすいが、障害のある方は相手も慎重になり難しい。そのため地域の実態はわかりづらいと思う。

< 第7条に関する意見要旨 >

- ・情報を広めようとしても町民が知ろうとしないとダメで、それをどうしていくか。幅広い世代が集まる場所で情報を提供するなど。
- ・町で説明する機会を作っても、聞いてもらう、参加してもらう工夫が必要。
- ・世代間の交流が必要と思う。同じ世代が集まっても、自分たちに都合の良い情報のみ話しをしている。
- ・行政に関心ないと言われるが、町民も自分に必要な情報（子育てなど）は取っている。
- ・町は情報をオブラートに包んだように出してきたため、正確な情報が町民に伝わっていないのではないか。本当の情報を出すことで、町民の受け止め方も変わってくると思う。
- ・情報のキャッチボールが大切で、それをどうしていくか。
- ・防災無線はボリュームを小さくしていると聞く。
- ・自分に関係のない情報でも、興味を持ってもらう工夫が大切。
- ・情報に関する手段と方法が大切。

- ・ 情報提供のテクニック、見せ方、伝え方に工夫が必要。24条の実行が問われる。
- ・ 住民会長との懇談会が開催されているが、2時間程度で分厚い資料の説明に終始している。じっくり話しをすることが大切であり、開催回数を増やすなど工夫が必要。
- ・ 相手に伝わらなければ、やったことにならないと思う。
- ・ 女性協で雪まつりに食事の支援をしているが、相手に頼まれてお手伝いをするだけで、雪まつりの企画には参加してこなかった。企画の当初から参加していれば、実際の運営に生かされたと思う。参加に留まっており、参画にしていくことが大切。
- ・ 色々な団体があり、それらを利用して情報伝えていくことも方法である。
- ・ 住民会長の任期は2年、町内会長は1年で交代。福祉などの役員は継続して担っている方が多く、このような人たちの情報や活動を利用してはどうか。

## 2 その他

次期会議は、8月11日（火）19時から、第5回会議は、8月25日（火）で予定する。

## 閉 会

[ 会議終了：21時10分 ]